

教員の養成に係る教育の質の向上に係る取り組み

愛知文教大学では、全学的な取り組みと学科独自の取り組みを、1年次からカリキュラム内外において、教員養成に係る資質の向上をめざして取り組んでいる。

1. 学習ボランティア活動（小牧市教育委員会との連携）

教職希望の1年次生は、9月に小牧市内の小学校において、2日間の小学校体験活動に参加する。目的は、教師としての仕事と責任について学ぶことである。そして、小学校体験活動に参加することにより、小中学校の学習ボランティアに参加することができる。学習ボランティアでは、各教室において、学習の支援を行い、児童と共に関わる活動を行い、教師の仕事の内容や、児童・生徒の実態を理解する。

小牧市教育委員会では、学習ボランティア制度を学習チューター制度という名称で呼んでいる。小牧市教育委員会と愛知文教大学は、平成21年度、学校支援チューター制度の提携を行なった。小牧市の学習チューター制度では、小牧市教育委員会から交通費の支給がある。

2. 教育実習の改善・充実：事前指導・実習校との連携・事後指導

教育実習に参加する学生に対しては、指導案の書き方、模擬授業等の指導を行う。国語科や英語科の指導案、道徳科の指導案の指導に対しては、教科の担当教員と、教職の教員が共同で指導に当たる。教育実習期間中に、ゼミ担当の教員を中心として、大学教員が実習校を訪問し、実習期間中における学生の様子を聞き、指導を行う。教育実習後、授業や生活における様々な指導について振り返り、改善点を考えさせる。

3. 教職ポートフォリオ：4年間を見通した指導

教職ポートフォリオは、各学年の履修内容を保存し振り返ることにより、よりよい教師としての資質や能力を身に付けるためのものである。教職ポートフォリオとして、グーグルクラスルームを利用する。教職ポートフォリオの内容は、授業の振り返り、レポート等である。4年次の「教職実践演習」の学習において、「教職ポートフォリオ」を利用して、自身の教職の学習の歩みを振り返る。振り返りを通して、自分の学習の蓄積をもとにして、学び続けることの意義を認識させ、生涯学び続けることの重要性を認識させる。

4. 教職課程研究センター：きめ細かな指導

本学では、教師を目指す学生を総合的に指導支援するために教職課程研究センターを設置している。教職課程研究センターには、教育に関する書籍や、教員採用試験対策の書籍が置かれており、教職学生が学習室として利用できるようになっている。また、教員採用試験対策や教職への就職支援を行う場所でもある。希望者を対象として、夏季休業中、春季休業中において教員採用試験対策講座を実施している。内容は、教科教養指導、教職教養指導、面接指導、指導案作成指導、模擬授業指導等を行い、教師としての能力育成を担っている。